

2025 年 10 月 2 日

**リコー、金融業務特化型 LLM(大規模言語モデル)を開発、10 月末から個別提供開始
～Difyの融資稟議書ドラフト作成アプリと合わせて FIT2025(金融国際情報技術展)に参考出展～**

株式会社リコー(社長執行役員:大山 晃)は、オンプレミス環境で導入可能なリコー製 700 億パラメータの大規模言語モデル(以下、LLM)に、金融業に特化した業務内容や専門用語を学習させた「金融業務特化型 LLM」を開発しました。合わせて、金融業で利用される融資稟議書のドラフトを自動生成する Dify*アプリケーションも開発し、10 月末よりお客様への個別提供を開始します。これらは今冬から、リコー ジャパン株式会社(社長執行役員:笠井 徹)が提供する「RICOH オンプレ LLM スターターキット」に搭載し、金融業向けのセキュアで包括的な AI パッケージとして提供します。なお、リコー ジャパンは、2025 年 10 月 9 日、10 日に開催される「金融国際情報技術展 2025 (以下、FIT2025)」で、これらの金融業務に特化した AI ソリューションを参考出展します。

銀行や保険会社をはじめとする金融業界では、生成 AI を活用した業務効率化や生産性向上の取り組みが加速しています。一方で、金融業務には、長年の経験で培われた専門知識や、複雑な金融商品を扱うための高度な専門知識が不可欠であり、顧客の多様なニーズに応じた個別対応も求められます。さらに、金融機関で扱う情報資産には、業界特有の言い回しや複雑で多様な図表が多く含まれ、AI による利活用が難しいことから、暗黙知(個人の経験や勘、身体感覚などに基づいて形成される、言語化や図式化が難しい知識やノウハウのこと)への依存による業務の属人化が課題となっています。

リコーは、こうした課題に対して、金融用語を事前学習し、金融業で扱う各種図表の読み取りが可能な LLM や Dify アプリケーションを活用することで、融資稟議書作成など業界特有の業務を AI で支援します。暗黙知を形式知化することで、過去の類似案件の検索や文書作成に要する時間を大幅に削減し、個人の経験やスキルに左右されがちな記載内容のバラつきを解消します。組織全体の業務品質向上と情報資産のさらなる有効活用を実現します。さらに、AI による支援で削減された時間を営業活動や顧客対応に充てることで、顧客満足度の向上にもつなげることができます。

リコーは創業以来、常にお客様の“はたらく”に寄り添い、働く人の創造力の発揮を支えてきました。今後も、さまざまな業種・業務に携わるお客様が抱える課題を、AI を用いたデータ活用などを通じて業務プロセスを自動化し、より多くの時間を創造的な業務に充てられるよう支援してまいります。

FIT2025 に出展する AI ソリューション

- 金融業務特化型 LLM

株式会社リコー <https://jp.ricoh.com/>

報道関係のお問い合わせ先 広報室 TEL : 050-3814-2806 (直通) E-mail : koho@ricoh.co.jp

お客様の問い合わせ先 仕事のAI お問合せフォーム https://www.secure.rc-club.ricoh.co.jp/shigoto-no-ai_inq?

- 融資稟議書のドラフトを作成する Dify アプリケーション
- RICOH オンプレ LLM スターターキット: オンプレミスでセキュアに生成 AI を活用するのに必要な環境構築、導入、運用支援までをパッケージでご提供するソリューション
- RICOH デジタルバディ: 自社データを活用できる仕組み
- DynaEye: 株式会社 PFU が開発した AI-OCR。金融業で使われる帳票を高精度に解析

詳細はこちら: <https://www.ricoh.co.jp/event/exhibit/fit2025>

*Dify … LangGenius, Inc. (本社: 米国デラウェア州 CEO: Luyu Zhang) が開発したオープンソースの LLM アプリ開発プラットフォーム。プログラミングの知識がなくても、LLM を活用したアプリケーションやサービスをノーコードで開発できる。

■リコーの AI 開発について

リコーは、1980 年代に AI 開発を開始し、2015 年からは画像認識技術を活かした深層学習 AI の開発を進め、外観検査や振動モニタリングなど、製造分野への適用を行ってきました。2021 年からは自然言語処理技術を活用し、オフィス内の文書やコールセンターに寄せられた顧客の声 (VOC) などを分析することで、業務効率化や顧客対応を支援する「仕事の AI」の提供を開始しました。

さらに、2022 年からは大規模言語モデル (LLM) の研究・開発にもいち早く着手し、2023 年 3 月にはリコー独自の LLM を発表。その後も、700 億パラメータという大規模ながら、オンプレミス環境でも導入可能な日英中 3 言語対応の LLM を開発するなど、お客様のニーズに応じて提供可能なさまざまな AI の基盤開発を行っています。また、画像認識や自然言語処理に加え、音声認識 AI の研究開発も推進し、音声対話機能を備えた AI エージェントの提供も開始しています。

■関連ニュース

リコー、日本語に対応したガードレールモデルを開発

https://jp.ricoh.com/release/2025/0828_0

高セキュリティなオンプレミス環境で生成 AI 活用できる「RICOH オンプレ LLM スターターキット」を新発売

https://jp.ricoh.com/release/2025/0407_1

リコー、生成 AI アプリ開発プラットフォーム「Dify」開発元の LangGenius, Inc. と販売・構築パートナー契約を締結

https://jp.ricoh.com/release/2024/1217_1

リコー、生成 AI アプリ開発プラットフォーム「Dify」を活用した社内実践を開始し、AI の市民開発に向けた取り組みを加速

https://jp.ricoh.com/release/2024/1128_1

リコー、モデルマージによって GPT-4 と同等の高性能な日本語 LLM (700 億パラメータ) を開発

https://jp.ricoh.com/release/2024/0930_1

リコー、日英中 3 言語に対応した 700 億パラメータの大規模言語モデル (LLM) を開発、お客様のプライベート LLM 構築支援を強化

https://jp.ricoh.com/release/2024/0821_1

■関連リンク

商品サイト: RICOH オンプレLLMスターターキット

<https://promo.digital.ricoh.com/ai/service/ricoh-on-premises-llm-starter-kit/>

FIT2025 出展情報:

<https://fit-tokyo.nikkan.co.jp/exhibitors/2051>

<https://www.ricoh.co.jp/event/exhibit/fit2025>

※社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

｜ リコーグループについて ｜

リコーグループは、お客様のDXを支援し、そのビジネスを成功に導くデジタルサービス、印刷および画像ソリューションなどを世界約200の国と地域で提供しています(2025年3月期グループ連結売上高2兆5,278億円)。

“はたらく”に歓びを 創業以来85年以上にわたり、お客様の“はたらく”に寄り添ってきた私たちは、これからもリーディングカンパニーとして、“はたらく”の未来を想像し、ワークプレイスの変革を通じて、人ならではの創造力の発揮を支え、さらには持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

詳しい情報は、こちらをご覧ください。<https://jp.ricoh.com/>